国語科学習指導案

　　　　　　　　　　　　　　　研修グループＡ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　竹原市立吉名学園　　向井　寛子

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　大崎上島町立大崎上島中学校　　大嶋真理子

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　府中町立府中中学校　　倉本　法子

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　県立呉南特別支援学校　　日高理江子

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　福山市立松永中学校　　桂　　真梨

１　日　時　令和４年10月20日（木）第３校時

２　学　年　第１学年Ａ組　男子７名　女子８名　計15名

３　単元名　竹取物語の魅力について，自分の考えを述べよう～なぜかぐや姫は「竹」から生まれたのか～

　　　　　　「竹取物語」東京書籍

４　単元について

（１）単元観

　本単元は，中学校学習指導要領（平成29年告示）国語第１学年〔思考力・判断力・表現力等〕のＣ読むこと（１）エ「文章の構成や展開，表現の効果について，根拠を明確にして考えること」を受けて設定したものである。

本単元で扱う「竹取物語」は，「かぐや姫」の物語として絵本や漫画を通して，広く知られている作品であり，古典作品の導入において，親しみやすい教材である。千年以上も前から読み継がれてきたものだが，現代社会にも通じるものがあり，かぐや姫と育ての親との交情や帝の求婚，人間の欲望など，人間らしさが色濃く書かれている。現代との共通点や相違点などを考えながら，物語の世界観浸っていくことのできる作品である。

また「竹取物語」の世界観をより魅力的にし，物語の中で登場人物の思いや物語の展開，情景などをより象徴するものとして「竹」や「月」，「不死の薬」などが登場している。これらの「竹取物語」に描かれた象徴と他の作品に描かれた同一の象徴との比較を通して，「竹取物語」を魅力的にしている要素は何なのか，現代にも残っている古典作品とはどんなものなのか考えることができ，より古典の世界に興味や親しみをもって読むことができる単元である。

（２）生徒観

本学級の生徒は，国語の授業に意欲的に参加する生徒が多いが，考える場面ではじっくり考えることができない生徒が多い。自分の考えに自信がない生徒が多いため発表する生徒が固定化してきていることが課題である。また，自分の考えの根拠となる部分が曖昧であるため，話し合いの場面では，説得力に欠ける場面が多く見受けられる。

表１

|  |  |
| --- | --- |
| 質問内容 | 本学級生徒（15人） |
| 古典が好きである。 | ３人 |
| 竹取物語を知っている。 | 10人 |
| 自分の考えを，根拠を持って伝えることができる。 | ７人 |
| グループ・ペアでの話し合いが活発にできている。 | 15人 |
| 人前で自分の考えを，自信を持って述べることができる。 | ７人 |

 　表２

|  |  |
| --- | --- |
| 質問内容 | 本学級生徒（15人） |
| 登場人物の心情が読み取れる。 | ６人 |
| 中心人物の心情の変化が読み取れる。 | ６人 |
| 構成や展開を理解している。 | ７人 |

７月にクラスでアンケートを実施したところ上記の結果になった。

　小説を読むことが好きな生徒は多いが，試験を実施すると，叙述をもとに，登場人物の心情の変化を読み取れる生徒が少ない。また，クラスの半数の生徒が，構成や展開を理解できていない。

（３）指導観

指導に当たっては，上記に記した生徒の課題を踏まえ，次の３点に重点をおいて指導する。

　１点目は，単元全体を通して自身の読書活動を振り返り，様々なジャンルの本に触れることで，物語の見方・考え方に広がりがあると生徒に実感させることである。またデジタル機器を活用して，様々なジャンルの本をいつでも何度でも読めるようにしていくことや自分で読みたいものを自由に選択できるようにしていきたい。

　２点目は，本教材が，中学生になって初めて出会う古典作品であり，３年間の学びを「つなぐ」古典作品であることに留意し，古典を好きになってもらえるような導入の工夫や，古典の世界を身近に感じてもらえるような工夫をすることである。導入では，絵本の「かぐや姫」や映画，動画など，古典の世界に興味や親しみをもつことができるものを活用し，生徒に関心・意欲をもたせたい。

　３点目は，様々な文章を読んで分析し，その分析した内容を根拠に自分の言葉で自分なりの解釈を，書かせることである。自分なりの解釈を書かせる際には，本文に返り根拠を明確にできるように指導する。そうすることで，自信を持って自分の意見を相手に伝えることができると考える。

５　単元の目標

・音読に必要な文語のきまりを知り，古文特有のリズムを通して，古典の世界に親しむことができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔知識及び技能〕（３）ア

・文章の構成や展開，表現の効果について，根拠を明確にして考えることができる。

〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃ（１）エ

・言葉をもつ価値に気付くとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切にして思いや考えを伝　え合おうとする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 「学びに向かう力，人間性等」

６　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・音読に必要な文語のきまりを　知り，古文特有のリズムを通　して，古典の世界に親しんで　いる。（３）ア | ・「読むこと」において，文章の構成や展開，表現の効果について，根拠を明確にして考えること。Ｃ（１）エ | ・文章を読んで，積極的に文章の構成や展開，表現の効果について根拠を明確にして考え，学習課題に沿って，自分の解釈を述べている。 |

７　指導と評価の計画（全９時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 学　習　内　容 | 評　　　価 |
| 知 | 思 | 主 | 評価規準・評価方法等 |
| 一 | １２３ | 〇絵本や動画などから，「竹　　取物語」と「かぐや姫」の話　が違うことを知る。〇歴史的仮名遣いや古文の特徴　等を確認して，「竹取物語」　の冒頭部分を音読する。〇「竹取物語」の全体のあらすじをつかみ，物語を魅力的にしている象徴的なアイテムは何かを考える。　　 | 〇 |  |  | 〔知識・技能〕　ワークシート・授業の様子・音読に必要な文語のきまりを知り，古文特有のリズムを通して，古典の世界に親しんでいる。 |
| 二 | ４５６ | 〇「竹取物語」の中に登場するアイテムとして，「竹」を全体の場で分析し，解釈する。（本時：５時）　・「竹」が使われている他の　　作品を選び，その作品の中　　で「竹」がどのようなもの　　として描かれているか読み　　取る。　・他の作品での「竹」の描か　　れ方と「竹取物語」での　　「竹」の描かれ方を比較　　し，「竹取物語」の中で　　　「竹」が何を象徴しているのか，分析をもとに自分の解釈を文章にまとめる。 |  | 〇 | ○ | 〔思考・判断・表現〕　ワークシート・スライド・文章を読んで，描かれた象徴の効果について分析し，根拠を明確にして考えている。〔主体的に学習に取り組む態度〕　グループワークの様子・ワークシート・文章を読んで，積極的に描かれた象徴の効果について根拠を明確にして考え，学習課題に沿って，自分の解釈をまとめている。 |
| ７８ | 〇前時で書いた文章をグループで交流し，自分の解釈に生かす。〇「竹取物語」の中で象徴的なアイテムを個人で選び分析する。・「月」「羽衣」「手紙」「富士山」などから選ぶ。 |  | (○)〇 | 〇 | 〔思考・判断・表現〕　ワークシート・話合いの様子・文章を読んで，描かれた象徴の効果について分析し，根拠を明確にして考えている。〔主体的に学習に取り組む態度〕　ワークシート・文章を読んで，積極的に描かれた象徴の効果について根拠を明確にして考え，学習課題に沿って，自分の解釈をまとめている。 |
| 三 | ９ | 〇評価問題を解く。 |  | 〇 |  | 〔思考・判断・表現〕ワークシート・文章を読んで，描かれた象徴の効果について分析し，根拠を明確にして考えている。 |

８　本時の学習

（１）本時の目標

　　・「竹」について調べたことや他の作品（詩）の分析を基に，「竹取物語」の「竹」が象徴していることを考え，書くことができる。

（２）学習の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 　・指導上の留意点★「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て | 評価規準と評価方法 |
| １振り返り単元シートを確認し，本時の目標を把握する。 | ・本時の目標を確認し，前時の授業の振り返りをさせる。竹取物語の謎を考える～なぜ「竹」でなければならなかったのか考える～※指導側の目標と異なるが，生徒に意欲をもって取り組んでもらうために，生徒側の目線に立った目標にしている。 | 　 |
| **導入・意欲づけ**２　「竹」につい て調べたことを全体で共有し，「竹」の作品から分析したことを発表する。 | ・竹についてインターネットや本を読んで分かったことを発表させ，「竹取物語」とどのようにつながりそうか問いかけながら全体共有する。・竹に関する詩を読んで，竹について自分で分析した内容を発表し，全体で共有させる。 |  |
| ３　「竹」について調べた内容から「竹取物語」の構成や展開に通じる部分を考える。４　グループ（ぺア）で交流しお互いに説明し合う。　　 | **発問①　教科書本文から「竹」のことが書かれているところを探してみよう。**例）　・竹取の翁　　　・もと光る竹なむ一筋ありける　　　・我，朝ごと夕ごとに見る竹の中の中におはするにて知りぬ　　　・翁は，節の間に黄金の入った竹をたびたび見つけるようになり次第に暮らしが豊かになった　　　・たった３か月で成長し「なよ竹のかぐや姫」と名付けた　　　　**発問②　本文で抜き出したところが，竹について調べた内容や他の作品の分析と関連付けることができないか考えてみよう。****発問③　かぐや姫が竹から生まれなければいけなかった理由とつながる部分がないか考えてみよう。**※他の作品から分析した内容を踏まえて，「竹取物語」に再度戻り，自分なりの解釈と理由を考える。その際，考えることが難しい生徒には調べた内容も活用して良いことを伝える。**発問④　調べたり，他の作品から分析したりしたことを根拠にして，かぐや姫が竹から生まれなければならなかった理由を書いてみよう。**　　　　生徒の解答例）「たった三か月で美しく成長し，『なよ竹のかぐや姫』と名付けられました。」というところから，かぐや姫は，三か月で成長するという，人間としては考えられない不思議さをかもしだしている。それは「竹」の性質が，たった三か月で成長することが関係していると考える。「なよ竹のかぐや姫」と呼ばれる理由も，「竹」の性質がしなやかでつよく，柔軟であるところが関係し，かぐや姫の性格に通じていると考える。このように，かぐや姫が普通の人間とは異なる不思議な人であることや，その性格を表現するため，竹取物語では，かぐや姫が生まれる植物は，「竹」でないといけなかった。　★自分の考えが可視化できるように思考ツールを配付する。★書き方の型を提示し，書くことが難しい生徒への支援を行う。★竹取物語のテーマを考えるとともに，「竹」とかぐや姫を重ね合わせて象徴の理解を深める。　　・本文に再度返って，自分なりの解釈を書いているか確認させる。・自分が分析した内容が，本文とどのようにつながっているかペアでの交流を通してお互いに確認する。・自分が着目した竹の性質について，他の部分とつながらないか考える。 | 〔思考・判断・表現〕ワークシート・スライド・文章を読んで，描かれた象徴の効果について分析し，根拠を明確にして考えている。〔主体的に学習に取り組む態度〕グループワークの様子・ワークシート・文章を読んで，積極的に描かれた象徴の効果について根拠を明確にして考え，学習課題に沿って，自分の解釈をまとめている。 |
| ５　自分の考えを再整理して，発表する。６　本時の振り返りをする。 | ・竹取物語の本文との関連付けを意識させながら，自分の解釈が書けているか確認させる。★視覚的に分かりやすい板書になるように注意する。・次時は，今日の活動をもとに自分で選んだアイテム（月・不死の薬等）について分析することを確認する。 |  |

９　板書計画

